

◆-----◇  
総合実用英文法講座

第25号 分詞 形容詞用法 実用

発行者：鈴木 拓 <http://www.thebelltree.com/>

◇-----◆  
こんにちは。鈴木 拓です。  
「総合実用英文法講座」をご利用いただきありがとうございます。

本講座のサンプルをご覧くださいありがとうございます。

今号も分詞のお話。

今号は「形容詞用法の実用」をお話しします。

「ルール」ではなく、むしろ  
「ルールとは違うけど、ネイティブはこう使う」のお話です。

■ 1 語の分詞なのに、後ろに置かれることがある

第23号でお話しさせていただきましたが、  
分詞の形容詞を置くルールは、

1 語であれば、

・ 

S	V	O
The crying baby	woke	me (up)

・ 

SP3
泣いている赤ちゃんが私を起こした

のcryingのように、名詞の前に置く。

2語以上であれば、

・ 

S	V	C
[The girl <giving a speech>]	is	my sister

・ 

SP2
演説をしている女の子は私の妹です

のgiving a speechのように、後ろに置きます。

しかし、第23号でお話しした通り、  
「1 語の場合、前に置く」は、ネイティブは守らないことが非常に多いです。

例えば、「踊っている人がある」は、本来は、dancingは1 語なので、

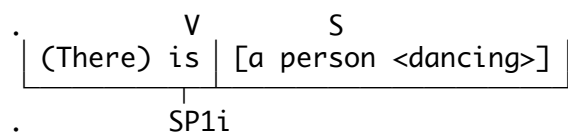
・ 

V	S
(There) is	a dancing person

・ 

SP1i

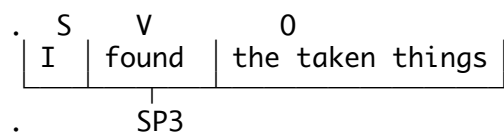
と前になるのですが、ネイティブは、この場合は、



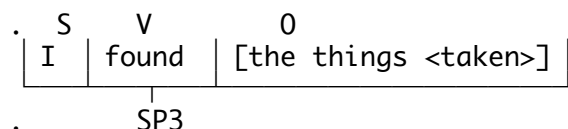
と、後ろに置きます。

過去分詞も同様です。

例えば、「私は取られた物を見つけた」は、本来は、takenは1語なので、



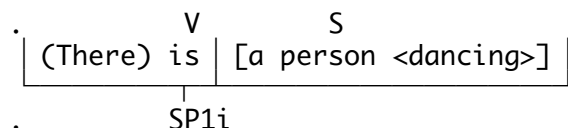
と前になるのですが、ネイティブは、この場合は、



と、後ろに置きます。

## ■現在分詞の場合、実質、1語だろうと基本は後ろ

実用という点で考えると、基本的に、現在分詞は、1語だろうと後ろと考えてしまった方が良いでしょう。



がそうですね。

なぜ、ネイティブがこうしてしまうのかというと、同じ-ingで「動名詞」というのがあるからです。

動名詞は第29号でお話しさせていただきますが、動名詞も現在分詞と同じ-ingで、

用法の1つに、a sleeping bagのsleepingのように、1語で名詞にくっつけて使う用法があります。

これはsleeping「寝るための」、bag「袋」という意味で、「寝袋」という意味になります。

このように、動名詞を名詞につけた場合、「～のための」という意味になるのです。

そのため、

V		S	
(There)	is	a dancing person	
SP1i			

と現在分詞を従来通り名詞の前に置くと、  
動名詞が名詞の前に置いてあるのとそっくりで、

まるで「踊るための人」というように見えるのです。

従って、「踊るための人なんていないでしょ。変な意味」  
と勘違いされて、紛らわしいのです。

そのため、現在分詞であれば、たとえ1語であっても、

V		S	
(There)	is	[a person <dancing>]	
SP1i			

と後ろに回してしまうことが非常に多いのです。

逆に、従来通り前に置かれる方が珍しいですが、  
前に置かれるケースは以下の2パターンです。

- 1 : 「この組み合わせはよく使われる」というケース
- 2 : 特定の現在分詞の場合

まず、

- 1 : 「この組み合わせはよく使われる」というケース

から説明いたします。

crying baby 「泣いている赤ちゃん」  
howling wind 「暴れる風」  
barking dog 「鳴く犬」

などがその代表例です。

この組み合わせは「定番でよく使われるから」として、  
現在分詞であっても、前に置きます。

第23号で扱った、

S		V	O
The crying baby	woke	me (up)	
SP3			

は、まさにその例でした。

## 2：特定の現在分詞の場合

組み合わせではなく、「この現在分詞なら前に置く」というものです。

例としては、

interesting、exciting、amazing、frighteningなどの感情動詞の現在分詞

他は、remaining、resoundingなどです。

これらは、interestingを例にすれば、

ネイティブは

「interestのingで、現在分詞は形容詞だからinterestingは形容詞」

というより、

「happyが形容詞のように、最初からinterestingという形容詞がある」

という感覚で見えています。

最初から形容詞なので、happyを前につけるのと同じく、  
これらの現在分詞は前につけます。

いくつか例文を挙げておきます。

S	V	O
You	have	an interesting book

SP3  
「あなたは興味深い本を持っています」

S	V	O
I	used	all the remaining ingredients

SP3  
「私は残っている材料をすべて使いました」

S	V	C
That	was	a resounding victory

SP2  
「あれは素晴らしい勝利だった」

不定詞の形容詞用法も「この場合は不定詞だ！」と自信があるときだけは不定詞で、それ以外は関係詞を使った方が無難とお話ししましたが、

1 語の現在分詞も同様です。

自信がある場合以外は、関係代名詞を使った方が無難です。

ちなみに、2 語以上なら、前と後ろの問題はないので、  
「助動詞もなく、進行形の意味」というのなら、  
どんどん使っても大丈夫です。

## ■過去分詞も多くの場合、1語だろうと後ろ

過去分詞も基本的には、後ろに置かれることが多いです。

前に置かれるのは、

「～されてしまって、そういう状態になってしまった」

というように、その時の受動態の意味ではなく、  
「過去のことから、そういう状態になってしまった」  
という意味の時です。

その意味でよく使われるのが、

broken、chosen、infected、injured、stolenなどです

例えば、

S	V	O
I	've found	the stolen car

SP3  
「盗難車を見つけた」

のstolen。

「過去に盗まれて、盗難車という状態になってしまった」

というような解釈で、前に置きます。

また、interested、excitedなどの感情動詞の過去分詞に関しては、  
感情動詞の現在分詞と同様、

「最初から形容詞」

とネイティブは見るため、やはり前につけます。

S	V	O
You	shouldn't anger	a depressed person

SP3  
「落ち込んでいる人を怒らせるべきではない」

感情動詞の過去分詞は別ですが、  
不定詞や「1語の現在分詞」と同様、

なかなか区別がむずかしいため、  
「この場合は使える！」と自信がある時以外は、  
関係詞を使った方が無難です。

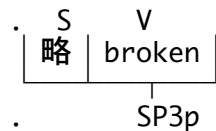
現在分詞と同様、2語以上なら、前と後ろの問題はないので、  
「助動詞もなく、受動態の意味」というのなら、  
どんどん使っても大丈夫です。

## ■第2文型のCに過去分詞を入れる

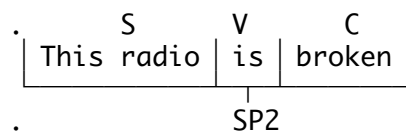
過去分詞は形容詞として使うことができます。

そのため、be動詞の第2文型で使える動詞のCに入れることができます。

例えば、「このラジオは壊れている」だったら、

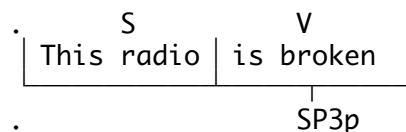


という過去分詞をCに入れば、



とできます。

でも、これ、「be動詞＋過去分詞」で、受動態と全く見た目が一緒ですね。



のように見えます。

このように、

「S be動詞 過去分詞」

は、

- 1：第2文型で、Cに形容詞として過去分詞が入っている
- 2：第3文型の受動態

という2通りの解釈ができるのです。

どちらの解釈が正しいか？

というと、結論から言ってしまうと、ほとんどの場合は、2の受動態です。

ただ、

「過去のことから、そういう状態になってしまった」

という意味を表したい場合は、

- 1：第2文型で、Cに形容詞として過去分詞が入っている

という意味を表すことができます。



S	V	C
This radio	is	broken
SP2		

の例は、受動態ではないものの、「ラジオが壊される側」という、受動態的な意味でした。

しかし、「人 be動詞 done」は、能動態的な意味なのに、この形を使われます。

例えば、

S	V	C
I	am	done
SP2		

は、直訳すると「私はやられる」というように、受動側です。

しかし、「人 be動詞 done」の場合、「終えた」という意味。

例えば、

Have you finished your homework?  
「もう宿題は終わらせたの？」

Yes, I am done.  
「ああ、もう終わらせたよ」

というように使うのです。

「人 be動詞 done」で、見た目は受動態なのに、第2文型で、「終えた」という意味になります。

## ■形容詞扱いだから、形容詞の用法が使える

先ほどお話ししたように、interesting、excitedなどの、感情動詞の現在分詞も過去分詞も、ネイティブは、

「現在分詞でできた形容詞」  
「過去分詞でできた形容詞」

ではなく、

「happyのように、もともと形容詞のもの」

として見ます。

そのため、形容詞として使える用法はなんでも使用可能です。

↓は今までお話ししてきた、形容詞のいろいろな使い方ですが、いずれも、普通の形容詞と同じように、感情動詞の分詞が使えます。



1 : 第2文型のCに入れる

S	V	C
This story	sounds	exciting

・「この話はワクワクと聞こえる」

S	V	C
She	seems	disappointed

・「彼女はがっかりして見える」

2 : 挟むso thatで使う

S	V	C
It	was	<so interesting that I had to read it twice>

・「それはあまりに興味深く、私は2回読まずにはいられなかった」

3 : 不定詞の程度用法で使う

S	V	C
He	was	<too stunned to say anything>

・「彼はあまりに唖然として、何も言えなかった」

4 : 不定詞の感情用法で使う

S	V	C
I	am	<excited to see you>

・「あなたに会えて興奮しています」

5 : S be動詞 感情形容詞 that節で使う

S	V	C
The play	was	<so amazing that I cried>

・「劇はあまりに素晴らしく、私は泣いてしまった」

■無理に1語にする分詞

本来は2語以上である分詞を無理やりハイフンで1語にすることもできます。

基本的には、以下の4つのパターンです。

1：第3文型で、Oを前に出してハイフンでつなぐ

S	V	O
略	making	money
SP3		

↓

money-making  
「儲かる」

S	V	O
They	have	a money-making business
SP3		

「彼らは儲かる事業を持っている」

2：第2文型で、Cを前に出してハイフンでつなぐ

S	V	C
略	looking	fine
SP2		

↓

fine-looking  
「見た目の良い」

S	V	C
Danny	is	a fine-looking gentleman
SP2		

「ダニーは見た目の良い紳士です」

3：第1文型で、副詞を前に出してハイフンでつなぐ

S	V
略	moving (slow)
SP1	

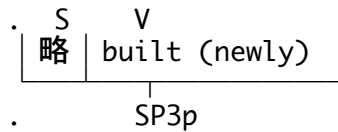
↓

slow-moving  
「ゆっくりと動いている」

S	V	O
Slow-moving cars	caused	a traffic jam
SP3		

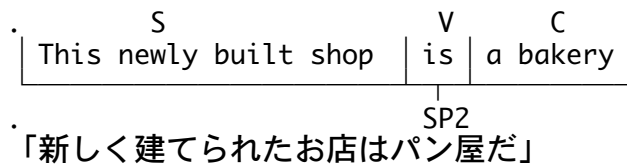
「ゆっくりと動いている車が渋滞を引き起こした」

4 : 第3文型の受動態で、副詞を前に出してハイフンでつなぐ



↓

newly-built  
「新しく建てられた」



こちら、不定詞の形容詞用法などと同様、  
「このセットはよく使われる」と自信がある時以外は、  
関係詞か、2語以上の分詞を使った方が無難です。

### 【実際に英文を作ってみよう！】

単語を並べ替えて、日本語の意味の英文を作ってください。

※：ただし、以下の単語は並べ替えるべき単語に入っておらず、  
適宜自分で補って考えてみてください。

I, me, my, we, us, our, you, your, he, him, his, she, her, it, its, they, them, their, this, these, that, those, there

※：本来、複数形にするはずの単語は単数のままにしてあります。  
これも適宜自分で複数形にしてください。  
最初から複数形になっているものは、複数形のままにしてください。

※：have not→haven't, I am→I'mのような短縮形にする、しないはどちらでもかまいません。

※：本来anとすべきところも、「a」になっています。  
適宜、anに直して使ってください。

※：be動詞 (am, was等) は「be」と記載します。  
適宜、正しい形に直してください。

※：どの時制であれ、動詞は「run」のように原形で表します。  
runs, ran, has run, is runningなど、適宜時制を変えて使ってください。

※：否定文、疑問文にするための語 (not, do, does, haveなど) は単語リストに入っていません。適宜補ってください。  
ただし、not以外の否定文、例えばneverを使った否定文などは、単語リストに入っています。(neverを使った否定文ならnever)

- ※：助動詞は入っていません。必要なものは適宜補ってください。
- ※：所有格にすべき単語もそのまま記載しています。  
例えば、Terry'sとすべきものでも、Terryとしか記載しません。  
適宜補って使ってください。
- ※：従属接続詞は入っていません。適宜補って考えてください。
- ※：if、whetherに入れるor notは単語リストに入っていませんが、  
入れても入れなくてもOKです。
- ※：so that、such thatのso、suchは入っていません。適宜補ってください。
- ※：等位接続詞は入っていません。適宜補って考えてください。
- ※：受動態にするためのbe動詞/getは入っていません。  
適宜補って考えてください。
- ※：「不定詞のSのためのfor、of」と「不定詞のto」は記載しません。  
適宜補ってください。
- ※：程度用法にするtooとenoughは入っていません。

1. 社長に対してあそこで説明している女性は私の上司です。  
(to/boss/lady/president/the/explain/the/be)
2. 私は昨日、興味深い映像を見つけて、それを私の同僚たちに送りました  
【過去形】 (send/clip/a/find/interest/yesterday/colleague/to)
3. 鳴いている犬が昨日、私が地理の試験のために勉強している時に  
邪魔をしました【過去形】  
(study/dog/for/bark/the/the/exam/disturb/geography/yesterday)
4. このワクワクさせるチームは奇跡と見られている勝利をもぎ取った。  
【過去形】 (a/a/team/miracle/victory/excite/see/grab/as)
5. イライラしている生徒たちを落ち着かせるのは難しいです。  
(down/tough/irritate/be/calm/student)
6. ケ빈は骨折した指でプレーしている。  
(a/play/break/Kevin/with/finger)
7. 残念ながら、この青色の古いコンピューターは壊れていますよ。  
(computer/blue/unfortunately/old/break)
8. 私はこのイライラする用事をやらなくて良いので、ホッとしています。  
(annoy/relieve/do/chore)

第25号の内容は以上となります。

今後も英語学習のお役に立てればと思っておりますので、  
何卒よろしくお願いいたします。